

夢想兵衛胡蝶物語前編

四

~13
3845
4



門 13
號 3845
卷 4

夢想兵衛胡蝶物語卷之四

東都

曲亭馬琴戲編

強飲酬

強飲國ハ酒とらく食と成飯と食ふの次野夫と一笑ひ併と食ふ

のて贅家と卑末の茶を喫ど甘さを好ど松魚の初声をすく

と死ハ布子と飛して差身を去てや吹や唄への二上りよ浮きて財布を

傾けて牙上の根板と踏抜く。こゝろを酒の泉にひらき子溢して竟も借金

の涙となり。玉の觴ハひるく乾のちて内換の茶壺とある。されば酒ハ百

茶の長ろりとしくも。重灰と只又萬病の半も長をん熊坂の号と混

ぶて。盗人上戸といつてゆうらじ。さういふ古人の三友也。酒をりて琴書と

一坐よと琴の耳と樂身。書ハ月夜一のす。酒ハ口と樂身と君



東都

一

子の交ハ一片の席料を論じて。水雜炊のあつたはく。小人の交
 ハ。三文か智恵囊を敲て。八文の醴より否る。酒ハをるるのけれぬ。
 同よなびどといふ冷好也。亦一竹と吸べと死也。更に秤目の中は似たり。
 東坡ハ洒落て掃愁歸り。梵さぬの呼くえて。般若湯といふはれ
 味酒の三輪のむく。秋葉建方又六か門を。極楽と定め。終にけ身も
 そろくろと誂る。辞世ハ吳志よ似る。とめり。とりの入。青洲の従事よ六。
 腹臍よ至るの。継真一先生よ。三か一の隠結彼飲中の八仙歌小也。
 李白ハ諸白の唐名よ。万葉の十三首よ。大伴酔て子よも不
 劣る。一盃ハ人酒を飲。二盃ハ酒酒を飲。三盃ハ酒人を飲。し声を
 けして。泣上戸より。泣くを罵り。腹立上戸。笑上戸。又捨上戸。引引ぐん
 呑。たいて。齋の。門の掃除。間酒拾得。五徳をのけて。小鍋よ。端婦

どのめ。足下の。さふハ上戸の癖。かて。て七癖。あると死ハ堪情。あるは男山風。
 味元斗高。とりども。顛邊。すて。登る。さうく。七の梅。一本生。その香ハ鼻を穿
 つとも。下戸の。為。ふ。閑。と。酒。目。の。死。人。も。又。勝。ぬ。前。の。杖。を。さ。る。と。
 飲。と。死。ハ。蜂。よ。似。て。坐。の。長。く。と。死。忘。ま。と。死。ハ。蜂。ハ。似。て。味。ハ。蜜。の。ど。け。と。
 肉林酒池の。荷の。盃。り。棒底の。濁。り。は。漆。ど。の。小。科。も。それ。が。あ。り。又。免。れ。た。礼。
 由。こ。ま。と。か。て。整。へ。べ。い。ま。う。く。バ。酔。ど。乱。ま。さ。る。と。真。の。酒。宴。と。い。ふ。べ。け。と。強。飲。
 困。の。習。俗。る。ん。バ。つ。ま。も。酔。て。飽。と。死。志。す。ハ。生。平。少。の。柔。和。忍。辱。も。い。ふ。と。
 酔。も。一。酔。も。酔。ハ。忽。ち。惡。鬼。の。と。く。口。中。言。數。多。く。な。り。日。來。ハ。堪。へ。述。
 懷。も。酔。と。紛。ま。よ。い。て。の。け。氣。恥。の。と。も。あ。り。の。け。お。ろ。か。の。の。を。纏。り。く。と。
 天。を。窺。ハ。管。を。す。り。結。加。跌。坐。け。一。偏。袒。右。肩。彼。百。目。の。げ。つ。る。も。只。
 反。吐。一。よ。吐。ら。し。眼。を。瞪。り。一。肘。を。張。り。一。流。し。一。空。一。一。歩。ハ。高。く。

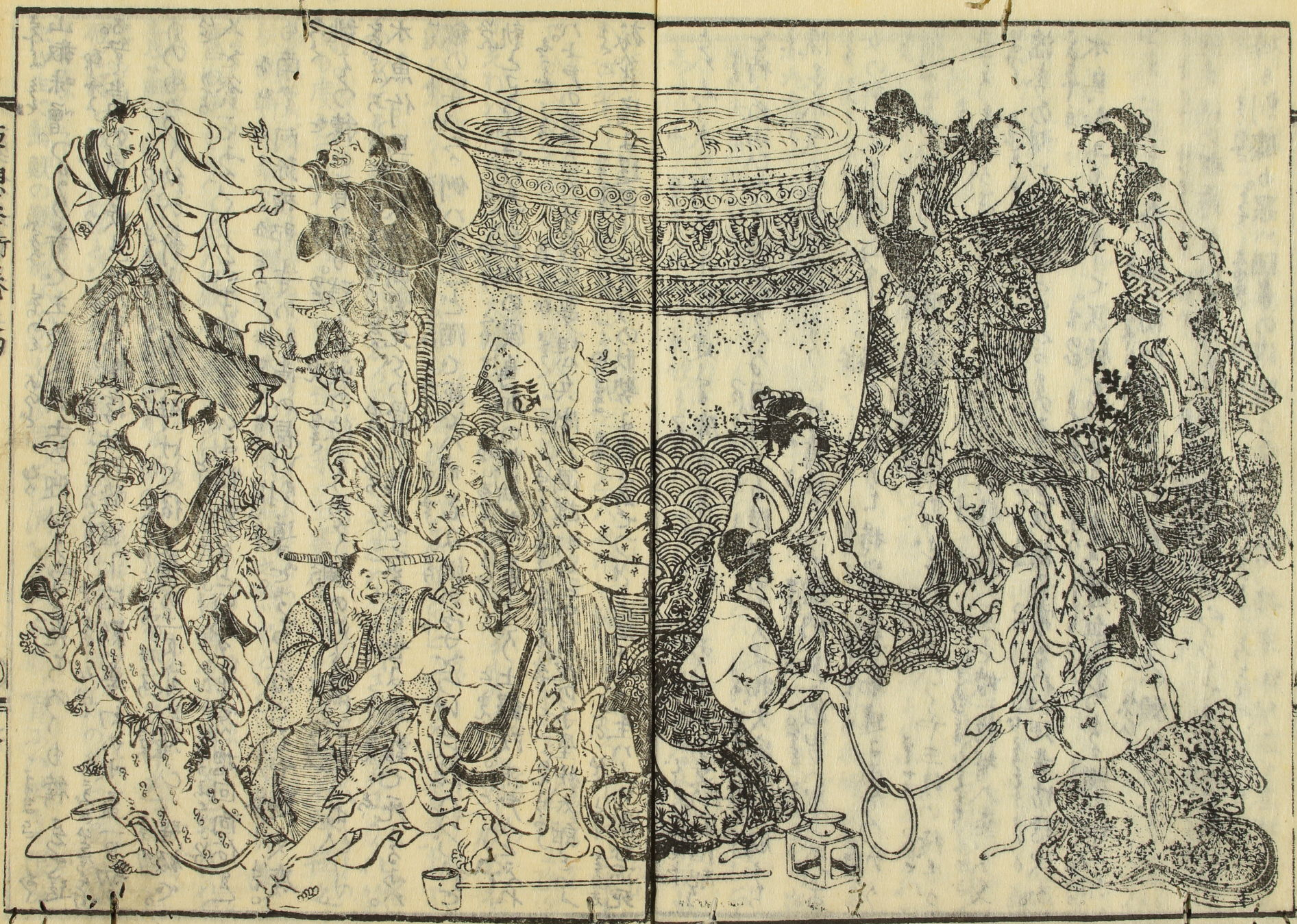
一歩ハ低ク。踵ハ踏ミ。とて。歌ハ。死ナ。海。罵リ。あつち。うら。うら。こ。ろ。と。こ。ろ。と。命。と。ち。う。う。う。の。勅。定。由。著。し。て。懐。中。の。物。を。遺。し。雨。果。個。へ。踏。込。ぐ。汁。粉。を。食。ひ。一。着。の。ど。く。酔。し。ふ。ま。て。石。と。杭。と。醒。て。流。し。嗽。げ。ど。も。塵。よ。ぶ。ま。て。隠。君。子。は。似。ど。その。日。の。活。業。も。それ。が。た。は。嫌。で。火。急。の。要。用。も。こ。ま。か。為。し。廢。し。て。お。た。一。室。よ。空。と。れ。ば。家。も。走。馬。燈。と。疑。ひ。惑。ひ。を。死。燈。火。に。對。ひ。て。も。火。頭。ら。う。つ。の。ど。く。筆。を。採。ハ。も。ぐ。ふ。く。履。穿。ハ。足。が。ら。び。ま。よ。ふ。年。つ。う。う。て。秋。子。の。さ。合。死。纏。ふ。小。娘。を。ま。り。て。大。声。を。揚。げ。せ。波。よ。と。戯。ま。て。眼。前。恥。め。ま。ま。う。ひ。よ。う。春。羽。目。を。柵。を。画。さ。低。く。あ。鼻。唄。の。真。似。ま。ま。初。献。ハ。懸。懸。初。三。献。ハ。翠。く。九。献。の。生。碎。奉。性。し。が。い。ど。や。う。と。硯。蓋。を。あ。じ。て。鼻。紙。は。果。む。梓。早。の。切。身。は。袂。の。濡。る。紙。厭。ハ。ど。燒。物。の。鯛。ハ。一。分。も。大。に。る。お。お。ひ。を。け。片。物。

の。果。子。ハ。甘。れ。を。嫌。へ。ど。癖。せ。ど。盃。の。さ。り。ハ。眞。丙。の。訟。う。ら。う。じ。く。未。叶。の。下。戸。あ。ハ。胡。越。の。多。ひ。を。り。と。疎。し。既。又。酒。の。肴。あり。肴。あ。れ。と。も。る。海。絶。ど。これ。は。倍。は。三。後。を。り。て。二。後。の。れ。も。い。ま。ま。彈。ぞ。これ。は。倍。は。端。婦。を。り。て。昔。の。朗。詠。小。端。と。変。ト。小。端。を。り。て。流。石。唄。の。鼻。唄。を。り。て。巻。し。る。一。穴。を。り。て。釣。掛。屋。屋。中。に。空。矢。炮。落。出。や。口。合。の。あり。う。い。の。餅。端。ひ。も。ぬ。り。は。撰。で。餡。餅。と。り。て。嗅。ぐ。元。は。叱。ら。う。夫。婦。喧。嘩。も。夜。半。に。打。中。は。中。笑。ハ。中。の。宵。一。宵。四。隣。を。騒。ぐ。中。夜。前。ハ。大。に。給。酔。し。て。前。後。忘。却。氣。の。毒。千。万。の。い。ん。造。他。に。厄。及。と。勸。解。ま。ば。人。も。あ。ら。び。外。に。生。醉。の。女。房。ハ。生。醉。熱。て。ぞ。扱。ひ。か。寺。の。納。豆。を。や。う。よ。大。中。藤。く。と。勝。み。く。又。物。を。さ。り。あ。げ。茶。碗。を。か。く。懲。言。い。て。も。罵。て。も。茶。よ。と。う。塩。茶。ぐ。ハ。硯。に。れ。ぬ。是。ハ。瓶。の。落。し。る。ど。く。頭。痛。痒。巻。き。青。が。め。朔。日。ま。ま。う。二。日。酔。海。日。は。酒。屋。の。勅。定。也。

今さら胸よつたまじど口さみよま友何く。いりの手合は迎酒。ちあひち
 うつと小半合り。一件二鉢三てんの小瓶。浅いさねりのあて。五鉢とつら
 のまの酒亭主つりて雪の朝月の文は花曇り。ゆくさびくで飲まら。一合
 かける居酒屋の床は腰をうちぬり。紅紫のその湯豆有肉。穴のあひる
 袂り。残つたるどく。ろるも。吹ひあぐや。同酒と夜の声。は好す。鄰
 で敲く鴨の骨。吹けはき。狂藤つるまじ。亥あひあ。女房を口説かして。
 又尻を。僅は四百通用の蒲團をまけて。肘枕。あそその中。あり。されば
 これの茶藨漉。ぶろく。酔てうま。由藤。れ飲ぬ。妻子の相餅。只名を
 小丸森。と腹あも満。ど夜や寒。死衣や落。死片。とだの箱火。持え抱。よる。炭
 團の天窓。敲く。どろの母。泣く子。ども。とりふせん。その前の世で。菰袋をむら
 ち。あつ報ひあ。亦今生の飲。を倒。と。生れ。来つて。酒屋の。為。よ。ま。よ。ら。れ

と。あ。夫の料簡。下戸の建。る庫。あり。それとも。ありや。あ。さ。り。新酒配
 と待。ね山。ひや。あ。い。ぬ。え。る。月。神。あ。も。造。酒。の。そ。ろ。物。火。宅。の。煩。悩。う。ち
 流。し。ん。気。ら。ひ。水。の。徳。ま。り。と。片。意。地。ま。り。て。聴。納。ま。ぬ。男。ハ。男。と。ま。る。も。
 女の酔。よ。る。母。え。ん。く。膝。う。ち。身。り。と。持。崩。と。横。筋。違。は。あ。や。り。切。り。
 酔。か。ま。り。て。高。笑。ひ。踊。る。内。儀。ハ。久。し。か。ら。ぶ。ど。と。壁。言。は。ひ。く。や。三。鉢。の。後。ま。り
 こ。ろ。ろ。又。是。が。こ。ろ。ろ。文。句。は。三。下。り。お。の。様。も。ね。ひ。出。と。娘。一。持。替。八。盃。ま。り
 淫。奔。の。媒。ハ。酒。の。咎。と。も。あ。る。り。の。り。か。ら。の。國。の。常。る。れ。ハ。地。黄。坊。持。次。り。
 水。鳥。記。あ。も。寄。り。て。只。飲。を。以。友。と。す。交。り。膿。血。は。あ。り。ま。る。蠅。の。如。く。振
 ぶ。ま。ど。も。その。毒。を。知。る。初。対。面。う。ち。ら。さ。けて。理。ろ。の。願。も。つ。の。さ。ら。ん。序
 馳。走。酒。の。輕。薄。笑。ひ。笑。き。且。て。飲。せ。理。る。酒。め。ぶ。ろ。く。て。身。よ。の。あ。て
 碎。る。割。膝。も。果。ハ。酒。毒。の。浮。腫。と。ら。り。吐。血。内。損。幸。中。風。よ。て。忽。地。こ。ろ。り

夢枕草子 卷之四



古今和歌集卷之四

古今和歌集卷之四

四

四

山椒味噌。つまの肴で立飲。冥土の迎ひうらと死。らるる由縁。是て送
 る。常の風は吹きて入。あはれ浮世の酔醒。泡影夢幻の水盃一口助
 りのちのく。終の薪は間陶也。碎けて後の舊の土。日暮の嫌ひ。強飯也。
 人を餐をふかくし。中ぶおろふは惜りうらといひ。うらさるる摠回向は
 由南。阿弥檀那寺の和尚の長い引導を。ちちうねてをや。逸支度
 能。うら。穂の着到也。残る。現の泣うら。鯛のの。煮を。詠うのひ。
 水魚竹馬の飲仲間也。死に骨を捨れて。と。世は。斂難で死する。あ
 斂の字。つら。例は。あ。と。酒で死に。戒名は。酒の字を。つけ。れ。ね。び。び。れ。を
 孰と。これ。が。け。と。北。郊。の。雲。鳥。部。の。煙。新。葬。累。と。う。土。饅。頭。下。戸。と。い。れ
 上戸の墓。あ。う。う。程。は。夢。想。心。女。湯。の。酒。旗。町。の。二。外。目。蛇。の。子。屋。飲。太。郎。と。い。う
 旅。宿。は。選。留。し。ま。う。の。形。勢。は。真。と。あ。て。つ。く。と。あ。ら。ま。う。生。八。人。の。樂。む。亦。死

人のあまら。亦。皆。愁。の。為。よ。その。死。を。忘。れ。人。は。酒。を。強。ん。と。き。う。う。命。を。惜。む。
 正。心。を。ハ。又。を。倒。し。て。物。を。追。入。異。る。う。ね。ど。就。毒。や。砒。霜。の。と。く。立。地。は。強。か
 見え。ね。ば。死。る。ぬ。つ。り。で。大。酒。と。き。う。の。う。ち。死。ぬ。り。の。身。は。飲。み。あ。ら
 酒。の。葉。を。飲。め。の。毒。と。る。も。又。酒。を。飲。め。ば。の。身。は。死。ぬ。り。の。身。は。飲。み。あ。ら
 ぶ。の。て。その。衆。生。の。獨。酌。は。あ。ら。と。上。戸。と。あ。ま。さ。バ。人。々。許。さ。せ。ぬ。死。よ。う。う。れ。飲
 酒。も。度。う。さ。る。れ。ば。又。の。文。選。枚。衆。か。上。書。あ。ら。泰。山。之。雷。穿。石。殫。極。之
 統。断。幹。水。非。石。之。鑽。索。非。木。之。鋸。漸。靡。使。之。然。也。といひ。ど。山。う。入。落。つ
 雷。由。絶。ぶ。ら。う。と。死。の。巖。石。へ。穴。を。あ。け。車。井。戸。の。釣。糸。も。繞。と。と。久。し。け。れ。六
 竟。は。幹。を。断。か。如。く。酒。の。人。の。命。を。削。り。断。あ。ら。ね。ど。も。飲。ま。久。し。け。れ。五。臟。を
 破。る。酒。を。飲。ま。げ。る。と。ら。も。の。因。縁。と。あ。れ。ら。凡。後。飲。酒。の。人。の。後。の。酒。を。好
 虫。か。生。て。鯨。鯢。の。潮。を。吸。入。と。う。上。う。命。を。酒。を。吸。入。左。肝。胃。を。納。り。限。を

名を画てかけば、さういふ心算して、さういふ世に、そればかり大なる眼は預
 ておいての身。たまた禁酒するものも、さういふ破らんと成りて、神仏に
 誓言をいけるもの、まんざらの札へを居と画ておくと、病を禁むる
 るれど、系清せぬ、その神仏が目よ見えぬ、なほ奥よ系、我を志して
 禁酒と破る、これらのが、一公の胸前よのり、臍の下よのり、二生ま
 ぬ類、酒は魂を奪ふ、さういふ博く、賢て等しく、行ひ、明より、表
 通じ、酒を飲ぶも、乱る、さういふ、戲謔、それらも、謹むる、病より、
 癡狂、世に、野人も、それを、狂言、おぼ、無理、おぼ、魅、おぼ、國、おぼ、人、を、稱、酒、中、の
 仙といふ、い、強飲、國の、さういふ、酒、呑、乱、酔、強、危、と、醸、
 鳴呼、お、い、慎、い、と、後、洗、け、さ、情、も、生、碎、の、さ、
 真、事、い、い、い、今、一、言、い、い、い、い、横、さ、さ、と、巻、げ、う、ね、面

魂ごとと睨つけて、又、莞然と笑ひ、お、野夫、を、い、り、の、ど、曲、と、香、の、物、
 酒が、飲、ぬ、と、古、人、綿、考、も、い、や、や、の、現、て、生、る、が、引、導、と、
 さ、さ、る、陳、粉、漢、ハ、吹、さ、ら、は、解、を、解、る、二、百、が、鹿、角、を、買、い、お、
 へ、さ、さ、る、理、屈、と、さ、さ、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
 どの、あ、い、い、堅、と、い、つ、つ、大、槩、か、の、い、い、賢、人、も、さ、さ、い、い、
 潔、く、受、て、一、盃、飲、つ、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
 言、ハ、百、千、の、霹、靂、震、は、異、な、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
 是、れ、用、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
 郷、は、後、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
 の、と、い、い、小、間、物、見、世、の、掃、除、い、い、い、い、い、い、い、い、
 とも、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、

へんて。さるさるもわらるる。かぶぶぶぶのうら。税伏させ。禁酒國と
 なる。さる酒と酌りの由。酒塩と早くと些たる。生塩をつまみ入る。禁酒
 ちりて。ゆもさる。び。碎ぬ。えれを罪をも厭へ。後。あ。塩。ゆ。入。ぶ。こ。禁酒。破
 きて。實主の礼も。喧嘩。買入。八。則。買。より。多く。賣。酒。の。れ。バ。買。酒。の。相。場
 ぶ。わ。飲。飲。本。残。よ。碎。が。高。賣。か。う。一。國。の。の。り。の。と。さ。う。果。ま。さ。り。ま。だ
 志。げ。と。慰。る。よ。さ。る。も。び。と。旅。宿。と。出。つ。江。潭。は。吟。入。る。三。國。大。夫。一
 あり。ぬ。さ。も。三。里。太。休。な。道。と。さ。る。ぶ。案。内。者。と。備。へ。て。さ。う。一。の。宮。で。請。ま。は。
 富。國。の。一。宮。の。南。山。壽。星。と。山。田。の。大。蛇。と。の。い。せ。祭。り。左。手。の。め。さ。の。劉。伯。倫
 淵。明。李。白。の。禿。倉。あり。右。手。の。ゆ。ふ。の。後。狄。杜。康。の。神。社。あり。斗。酒。老。士
 が。書。齋。の。蹟。麴。生。秀。才。が。化。物。屋。敷。和。田。酒。盛。の。大。坐。敷。杉。次。が。古。我
 場。の。く。縁。起。縁。故。あり。彼。案。内。の。阿。爺。と。り。つ。も。さ。る。も。び。と。酒

糟。漢。あ。く。ひ。う。う。つ。く。足。を。踏。み。め。抑。ら。ず。は。び。り。り。さ。う。さ。る。南。山。壽。星。の
 太。神。漢。土。唐。の。帝。の。と。死。人。間。は。出。現。し。て。只。一。息。は。百。盃。の。酒。を。若。む。さ。く
 飲。む。酒。毒。の。付。つ。く。一。夜。の。中。は。天。窓。忽。ち。北。長。く。る。り。こ。め。か。改。顔。さ。り
 て。陶。を。造。り。た。め。り。相。疑。の。山。田。の。大。蛇。稻。田。姬。の。さ。き。け。り。食。氣。が。さ。り。と
 一。陀。と。の。げ。唐。の。芋。あ。の。ね。ど。も。八。頭。と。掉。立。て。八。蓮。の。酒。を。め。ら。し。ひ。素
 盞。鳥。の。尊。尊。の。為。し。尻。を。破。く。ま。あ。ひ。し。う。酒。を。買。て。尻。を。切。ら。る。と。い。ふ
 世。話。の。日。本。神。代。の。時。より。起。る。後。狄。の。唐。山。禹。王。の。さ。り。を。め。て。生。碎
 と。造。酒。屋。杜。康。の。杜。車。の。親。方。株。割。伯。倫。の。底。抜。あり。陶。淵。明。の。五。味
 先生。李。白。一。時。四。百。盃。斗。酒。學。士。と。一。斗。の。酒。を。一。日。も。飲。む。唐。の
 王。績。が。下。号。あり。麴。生。秀。才。と。さ。う。さ。る。茶。法。を。代。碎。ま。す。現。化。し
 ぬ。酒。の。神。和。田。酒。盛。の。さ。る。ゆ。ぞ。杉。次。の。大。塚。と。世。と。さ。け。好。の。医。生。と。太

師河原の底深と酒殿の高名揚馬。十六人の酒の舟子を引つきては
 國へ送りしれちとせし神事と云ふもさうもね長物候は羨志兵衛の
 屈してさう業内の阿茶と云ふ。約三十町ありありて天酒山美祿寺と
 して大刹あり。大門のまはりの許葦酒入山門といひ戒壇石と云ふ。こゝを
 して神と云ふ酒林候は霞入と云ふ。堂塔をかひつゝ一盃飲はるゝ
 さん堂ちよさりのめてて七面也。六尺有るの五體堂也。内損七斗のかえ堂向
 見えぬ山と云ふ。ちよと云ふ。井より四方の赤池。田伊丹の諸自蓮華。さうて
 早も軒。酒の橋と云ふ。一柱と云ふ。積のげと云ふ。五重の塔の匂菱と云ふ。醍醐堂
 臺と云ふ。つゝ滅法大酒の灵地と云ふ。折れ茶酒如來の閑帳と云ふ。瑠璃臺
 よりも酒壺と云ふ。老若男女あつと運ぶ。膳吞の善の徳と云ふ。群集へ押
 合へり。のひ。合へり。手と云ふ。び。越。投。盃の塞。殘と云ふ。鈍子のつり。行。文。と云ふ。有。

がつとて手と云ふ。ぬ。か。ぐ。ん。で。出。る。大。盃。也。一。遍。ち。の。是。宝。の。さ。く。左。り。が。利
 務。手。と云ふ。一。番。中。の。圓。白。道。隆。公。の。烏。の。盃。出。外。と云ふ。同。大。積。乃。卷。の。六。合
 入。り。二。番。の。浪。と云ふ。免。の。盃。和。田。か。酒。り。小。林。の。の。と云ふ。え。て。七。合。入。り。を
 三。番。の。碗。久。か。び。つ。つ。丸。ハ。八。合。入。り。四。番。ハ。乃。北。黄。坊。か。蜂。龍。つ。つ。と云ふ。一。件
 入。り。五。番。の。白。葉。君。と云ふ。と。これ。浮。瀬。の。ゆ。り。め。吉。野。か。蟹。の。盃。ハ。顧
 太。初。か。形。と云ふ。一。人。の。ち。ね。し。る。鶯。籠。盃。飲。ぬ。也。鶯。籠。の。盃。ハ。張。姓。李。子
 氏。か。び。つ。つ。彼。李。迪。之。が。九。品。の。内。蓬。菜。盃。也。海。山。螺。舞。仙。螺。龜。子。危
 慢。卷。上。荷。金。蕉。葉。也。玉。蟾。兒。李。宗。園。か。荷。葉。盃。質。也。あ。る。ね。は。流。ら
 受。つ。曲。水。の。觴。也。得。陽。の。江。標。と云ふ。て。月。の。鏡。也。若。の。茶。の。香。口。付。し
 握。く。盃。和。漢。の。灵。宝。数。と云ふ。て。恭。々。く。饒。々。と云ふ。を。禮。講。中。麻。上。下。の
 の。片。肌。脱。て。手。拭。碎。す。れば。縁。起。り。ひ。そ。り。め。り。亦。と云ふ。以。盃。の。さ。る。ひ。

夢枕草子

三十一

茶の味。いふ碎て拜められませう。と嘆息も。下戸の為めは生有が。茶
 飲兵衛の酒臭い群集の息は改痛が。寺々下向は赴か。在りませう
 も右をえても。酒屋のそめて茶店いり。人の門は瓶を出して。茶碗の四ツ
 柄杓を添ふる。酒と札をつけ。六七月炎暑の比の。ふるまひ水は等しけ
 せど。るん喉が乾ても。酒を呑む気は。天城の山越。水は
 乏しくと。下戸の。暮されぬ。と嘆息。寺々
 境内を生てる。茶の木の。茶店。片澤家の。唐茶の
 掛る。燈は。唐茶の二字を写し。え。兵衛の。通町。小
 便所。えつけ。と。床は。山吹。好す。茶の
 の。唐茶の。茶碗。と。山吹。好す。茶の
 茶。と。唐茶の。茶碗。と。山吹。好す。茶の

中にもひとよ。唐茶と。龍團。雀舌。と。酒を
 飲。と。人。と。文盲。阿爺。と。床。と。駭。と。罵。と。

○酒茶論

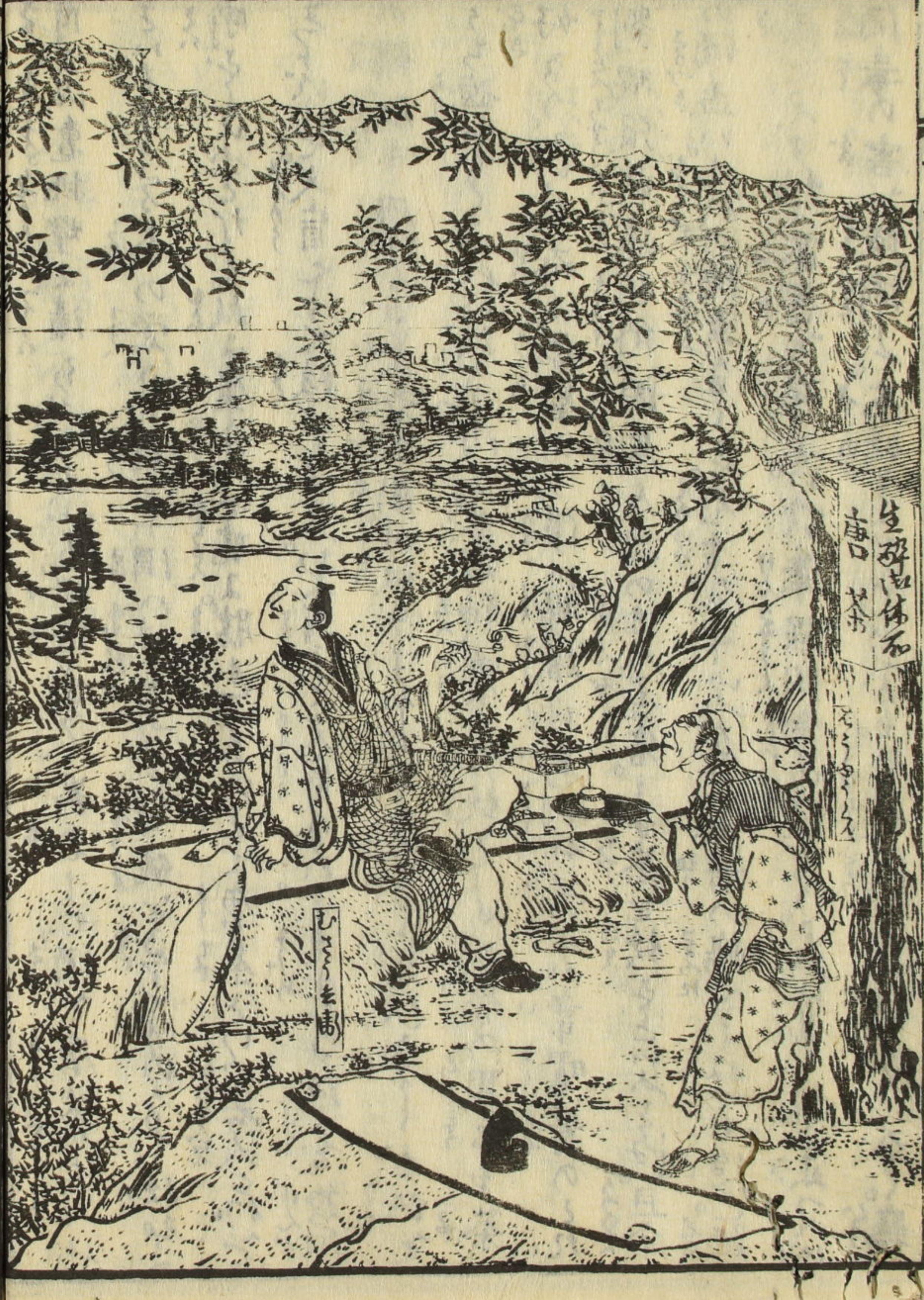
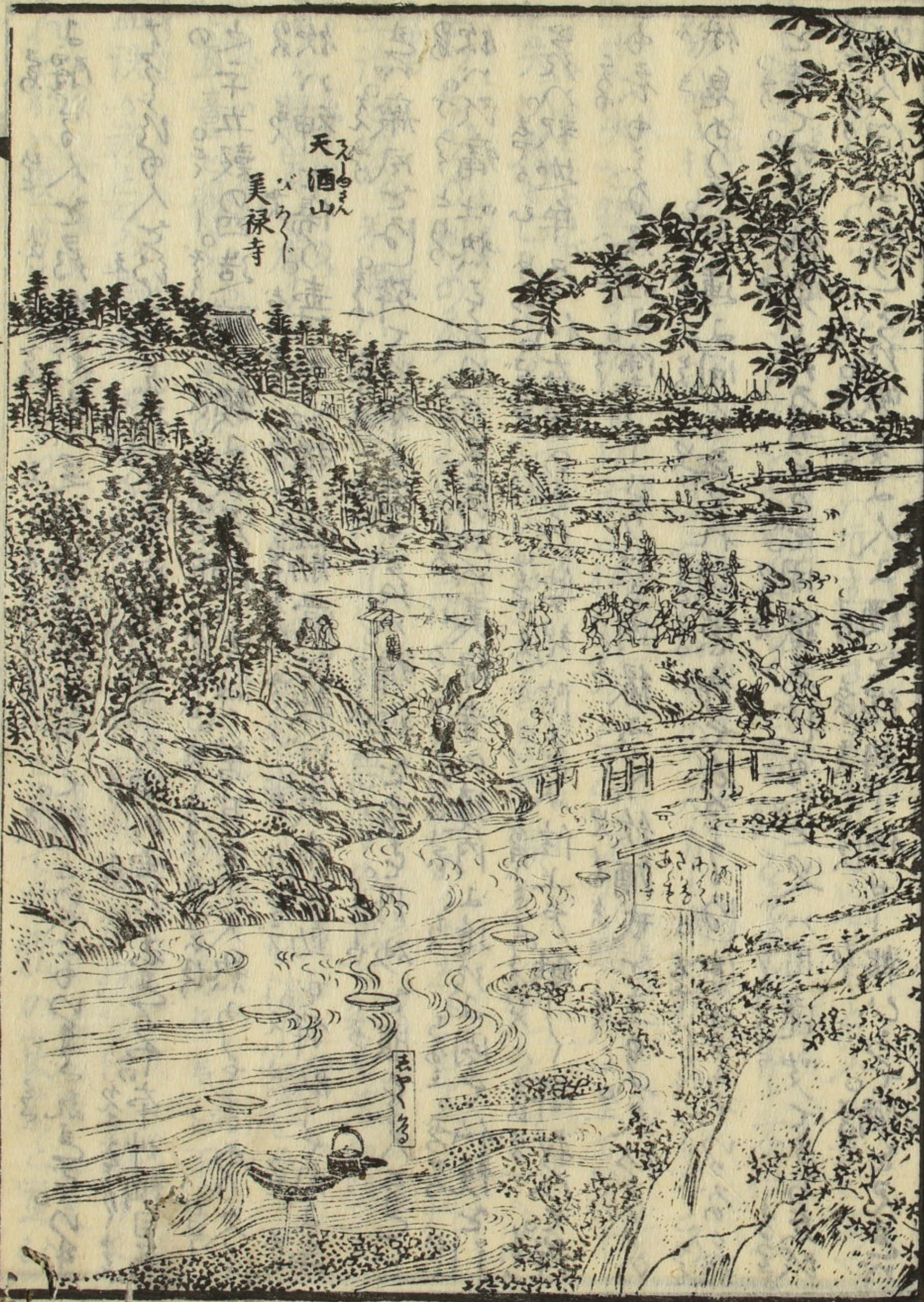
の。は。翁。と。笑。ひ。客。人。と。名。萬。物。は。異。名。の。り。名。の
 又。雅。俗。の。蘭。陵。と。令。華。の。李。白。が。待。と。名。の。蘭。陵。及。酒。詩
 令。香。と。賦。と。金。花。酒。と。亦。蘭。生。と。漢。武。の。酒。場。帝。は。王。薤。と
 志。と。例。の。醇。儒。と。号。し。懿。侯。と。溢。り。醴。泉。侯。と。封。せ。し。唐。子。西
 が。僧。誓。若。若。湯。と。和。尚。の。酒。東。坡。の。旋。と。俗。人。を。唐。茶。と。の。縁
 号。と。玉。帚。と。の。酒。の。俗。人。を。唐。茶。と。の。縁
 故。と。煎。茶。は。異。名。と。代。酒。後。と。の。逆。と。の。酒
 唐。茶。と。の。酪。奴。と。の。茶。の。吳。文。酪。茶。以。茶。の。茶。と。酒。の。奴。僕。と

酒をりて茶の君とするも、強飲國の私るるべし。和漢の故る、故考ふる、進雄き、脚
 摩乳、牛摩乳、八獲の酒を造り、神代のもろ酒あり。唐山、唐
 王のと、純帝、女儀、狄が、釀り、と、いと、黄帝の、之れ、既、酒あり。茶と飲、五、つと、後
 少て、類聚、國史、よ、弘、仁、六、年、六、月、壬、寅、畿、内、及、近、江、丹、波、播、磨、木、茶、を、植
 せり。毎年、二、三、を、献、り、と、見え、れ、バ、嵯、峨、天、皇、の、御、時、よ、そ、下、め、て、そ、を、植、け、ら
 ぬ。唐山の史、よ、呉、志、よ、見え、る。孫、浩、が、と、純、并、を、り、て、酒、を、換、り、と、り、と、あり。
 三國、以前、茶、ハ、飲、え、ぬ。さん、バ、酒、の、名、目、を、竊、で、茶、の、名、づ、け、ら、る、る、ま、り、
 そ、の、二、三、を、り、て、酒、を、糖、黄、の、称、の、り、と、取、て、煎、茶、は、蟹、眼、の、り。醪、酒、と、如、蜜
 と、い、ハ、團、茶、を、亦、蜜、丸、と、い、ハ、の、り、小、丸、を、り、と、洗、子、よ、似、て、土、瓶、を、造、り、
 高脚、杯、を、な、ね、て、茶、碗、を、造、り、盃、臺、が、茶、臺、と、出、立、り。酒、瓶、を、り、て、茶、壺
 と、い、ら、酒、を、着、と、い、ハ、酒、を、茶、よ、口、ろ、す、と、い、は、れ、と、寂、し。酒、を、り、て、茶、よ、比、せ、ぬ

同、は、泥、龜、挑、燈、は、撞、り、こ、ろ、ぐ、と、も、世、俗、と、い、ハ、異、名、し、て、酒、を、唐、茶、と、い、ハ、
 ま、り、と、い、ハ、茶、の、榮、り、り。且、酒、ハ、味、と、い、ハ、七、碗、を、り、と、り、の、り、り、飲、む、
 酔、を、と、い、ハ、た、り、故、は、盧、仝、が、七、碗、は、勝、つ、り、の、り、と、て、唐、茶、と、い、ハ、客、人、を、
 ま、り、と、い、ハ、支、旨、と、い、ハ、後、ま、り、の、り、と、い、ハ、文、盲、の、り、と、文、盲、の、り、と、老、實、な、返、答、の、り、
 の、辨、款、手、冊、に、よ、る、と、兵、衛、此、奴、を、り、と、と、り、と、い、ハ、ひ、り、の、り、り、り、り、
 う、ち、掉、り、や、く、し、れ、ハ、故、の、り、茶、ハ、神、農、の、り、飲、む、り、て、魯、の、周、公、由、茶、
 好、る、り。その、り、荷、り、嬰、の、り、僕、ハ、揚、雄、司、馬、相、如、呉、よ、ハ、章、曜、晋、の、り、
 劉、琨、張、載、遠、祖、納、謝、安、左、思、の、り、人、聖、者、の、り、茶、を、飲、む、と、い、ハ、と、い、ハ、且、今
 の、酒、盃、ハ、上、代、の、酒、盃、を、り、と、と、と、い、ハ、昔、の、觴、と、い、ハ、て、造、り、酒、
 器、を、り、な、ね、茶、器、を、造、り、と、い、ハ、牽、強、附、余、の、鏡、あり、と、い、ハ、な、ま、り、と、い、ハ、
 酒、毒、の、害、を、祝、論、し、て、茶、飲、む、と、い、ハ、と、い、ハ、皆、醉、漢、の、り、説、よ、り、と、い、ハ、竊

本草綱目卷之四

古今和歌集卷之四



古今和歌集卷之四

十一

酒を飲んて人を尋ねたり。是下ハ甚老実なり。酔といふものも此也。酒の害を言ふ。本件綱目卷
 之二十五穀の四造釀の類云。米酒ハ気味。苦甘辛大熱。少毒。酒の害を言ふ。本件綱目卷
 飲ハ神を傷ル。壽命を損ル。筋骨を軟ク。氣刺を動シ。醉臥して風寒
 之ハ。痲風をひ碎テ冷水ニ浴ス。死ハ。痛痺を有シ。丹砂を服ス。人々之を
 飲バ。腹痛吐熱。多量。又。酒ハ。美祿寺の境内ニ近シ。因テ。仙視を引
 きた。親如牟尼。仁在世のとき。安場陀と云。位上戸。酷ク。酔ねて。痔
 由衣も。多量。及吐。陰。下。り。け。る。因縁。あり。飲酒。戒。を。立。つ。又。ひ。つ。り。の
 俄鬼。あり。て。月蓮。又。同。ク。云。見。願。愚。キ。と。ある。よう。は。安。安。あり。つ。る。を。罪
 と。造。て。め。る。俄鬼。と。あり。る。を。因縁。あり。と。い。ふ。月蓮。云。て。う。ち。点。改
 女。人間。の。あり。と。た。威。多。人。酒。と。強。碎。倒。早。報。ひ。あ。て。酒。と。又。い。ふ。バ

水。多。飲。ん。て。その。水。と。飲。ん。と。と。れ。ハ。亦。地。火。と。変。じ。中。や。と。い。ふ。手。と。て。
 昔。侍。酒。と。強。飲。す。ハ。人。と。食。で。る。り。て。毒。餌。と。も。これ。等。し。不。仁。と。云
 い。ん。ず。れ。と。云。い。ん。ざ。れ。ハ。酒。又。三。十。六。の。失。の。人。リ。酒。と。飲。と。れ。ハ。さ。ら。の
 三。十。六。失。を。犯。さ。る。の。の。れ。亦。ハ。仁。ハ。い。ふ。う。う。と。道。を。戒。む。酷。シ。は。至。て。天。下
 と。失。ひ。死。と。亡。と。さ。る。と。道。酒。の。咎。あり。と。息。勢。張。ま。は。い。ん。を。く。客。人。酒
 酒。と。い。ふ。科。の。戒。と。い。ふ。酒。又。大。多。量。徳。の。戒。と。い。ふ。本。州。の
 主治。と。い。ふ。米。酒。ハ。芽。勢。力。を。行。く。百。部。惡。毒。の。氣。を。殺。し。又。血。脈。を
 通。し。腸。胃。を。厚。く。皮。膚。を。潤。し。濕。氣。を。散。し。憂。を。消。し。怒。を。發。し。言
 と。宣。意。を。揚。ぐ。馬。肉。桐。油。の。毒。を。解。し。丹。石。癸。動。積。病。を。治。し。熱。し。て
 孟。洗。が。説。と。ころ。馬。肉。桐。油。の。毒。を。解。し。丹。石。癸。動。積。病。を。治。し。熱。し。て
 酒。を。飲。ハ。甚。ク。一。時。珍。由。り。と。れ。ハ。仁。由。酒。を。賞。て。甘。露。の。良。薬。と。宣。い

又波斯匿王の末利夫人飲酒戒を犯せり。此世を了るを智るはむ。其の五つの犯戒ハ大功徳を了るると。却て是と稱する。さるよふて。菩薩の酒をりて人ニ施すと。佛に於て過ると。説く。ひし由なる。四天王の天漿のり。これを名つて花酒といふ。阿修羅の四天海をりて。酒にてこれを飲する。是も酒といふ。阿修羅の醜譯之上の四天王。下の阿修羅界に至るまで。酒を好まぬ。仏もあらず。如來のその中。酒の徳歟。あまも茶の徳ハ終つて。又六經ありて。戒を載せし。客人は國へ来て。酒を飲せし。茶を母。ガハ。竟舜の代。禁射を。室の山へ入つて。大の糞を。又。悟る。ぬ人。命と。あり。五臺山。よりして。覺ると。茶を喫。一。玻璃盞子を。手より。南

方より。情味あり。小僧は茶改を。茶の徳。如茶あり。華嚴の大海衆を。喚起。古來。茶を。酒を。例へる。茶の徳。茶を。載。屈原。離騷。梅と。載。家持の。牡丹の。如し。禪家。三。論。趙。茶を。喫。七百の。甲子。風。茶を。賞。三。禮。度。匡。海。山。茶を。摘。體。用。香。茶を。好。原。南。泉。魯。祖。歸。宗。杉。山。茶を。洞。山。雪。峯。巖。欽。山。茶を。行。夾。山。監。中。一。投。子。碗。九。夫。風。雅。茶。功。徳。破。石。翁。笑。酒。七。祖。婆。須。密。右。手。酒。壺。引。抱。六。祖。彌。遮。迦。同。答。婆。須。密。法。器。

夢枕土備卷之四

一十四

元 相承し今に至る。曇拈刹の蜀英の。諸方よこを酒曇と
 り。或ハ芭蕉泉禅师の杖ニ酒瓢引くけく。山中を往来せり。馬祖は
 浮和尚黄檗は。唾酒糟の紙をすく。或ハ曹山自家の酒。或ハ青峯
 蒲萄の酒。色をも香をも飲むり。或ハ粉餅の故より。陶淵
 明ハ大醉漢。その芥一の達磨と喝ん。あるは客人とを憎む。天下
 を失ひ。牙を亡ぶ。も。是酒の為行こ。茶を賞るをえねと。
 りせもの。必羞。其兵衛ハ。掌と拍く。大笑。以彼禁封の。兩天子ハ。
 酒をりて。天下を失ひ。義和の二氏ハ。醉ら。是を。竟。其の牙を喪ひ。
 されん入の。よく。亦就中。村王ハ。酒を池と。糟を丘と。牛飲の。拵び
 せ。ら。八畜生ハ。異なる。ど。う。なる。澄。据。で。ある。す。の。飲。と。ハ。弱。ハ。改。で
 挿。り。ど。う。なる。ん。ハ。ひ。り。竟。帝。酒。を。飲。て。千。觴。を。累。く。る。その。仁。万

ニ。今。ハ。溢。ま。孔子。由。百。盃。と。引。く。け。く。其。德。四。海。の。外。ハ。以。ハ。後。狄。酒
 と。醸。ま。れ。ハ。禹。王。賞。く。妙。と。ハ。杜。康。酒。と。造。り。一。は。武。帝。飲。ん。く
 憂。と。く。く。も。又。高。宗。ハ。殷。の。中。興。夢。ニ。鞠。藥。を。ゆ。る。ハ。亦。仁。德
 帝。の。久。時。一。曾。保。利。曾。保。利。と。以。ハ。一。兄。弟。酒。と。造。る。の。方。あり。
 則。御。酒。と。造。り。ハ。酒。看。郎。子。の。号。と。賜。ハ。ハ。子。孫。酒。部。と。
 と。氏。と。ハ。吉。野。の。國。栖。酒。應。神。ノ。名。ト。ナ。リ。室。山。の。搖。花。酒。後。由
 小。起。る。酒。ハ。清。き。次。り。て。聖。と。ハ。濁。と。り。て。賢。と。ハ。聖。賢。の。道。徳。と
 あり。故。の。後。ハ。中。酒。と。ハ。研。ハ。と。釋。ぶ。る。れ。中。あり。中。庸。の。道。酒。と
 あり。史。記。ハ。酒。の。徳。と。賞。て。百。菜。の。長。と。ハ。博。物。志。ハ。酒。の。功。人
 え。ハ。王。肅。張。衡。馬。均。の。三人。ハ。酒。を。飲。む。ハ。霧。を。犯。し。山。岳。を。穿。く
 と。の。り。ん。ハ。一人。ハ。飽。を。飯。と。食。ひ。一人。ハ。志。と。り。酒。を。飲。む。一人。ハ。茶。封

夢遊士集卷之四

七

何ふも食ふことかして山踏まうかまは。空腹のりめうりと死し。飯を
 食ふ病まうとひ酒を飲ぶるりめたる。山夫の悪邪も犯す。徒
 つてぬりしる。彼桀紂は色夫ちがひ酒の好むひひぐし。と
 ぞと嘯けは。夏武兵衛ハ扇と笏とさうる。海し。さるる。ふ故る
 づし。生字才のあゝめ。めどもめま。つて解か。さるる。近く。破れ。さる
 る。天地の間は生さる。めめ。人倫と禽獸と山川と草す。る。就中
 人倫と萬物の靈とまれば。人ふとさる。めめ。茶といふ文字と。ま
 へ。上。柞木の間に人あり。酒といふ字ハ水邊と。さる。と書。は。い。と。中。彼人
 倫の茶と。及び。さる。と。翁。は。う。ち。清。と。人。ふ。貴。賤。賢。愚。あり。善。人
 まける。悪人。ま。さ。る。ふ。風。風。あり。め。め。禽。獸。と。さ。る。卑。ひ。さ。る。は。
 唐の李杜ハ名さる。人。さ。る。水。邊。の。鳥。と。愛。し。て。用。元。と。二。名。と。化。し。翼。天

下を掩ふといふ。又韓朋が妻ハ貞女あり。康王の夫と叙し。妻と宮
 中ハ納まども。後ハ。自。殺。し。て。夫。婦。鳥。と。化。し。常。ハ。水。邊。に。お。び
 る。あり。茶。腹。一。時。世。ハ。強。人。ハ。柞。木。の。間。に。身。を。隠。し。茶。と。い。ふ。文。字。ハ
 水邊の鳥ハ不及と。さる。と。執。昆。久。ハ。夏。武。兵。衛。ハ。扇。の。名。を。声。を
 する。揚。て。麒麟。と。千。の。鳳。凰。と。千。の。と。さ。る。獸。が。好。す。く。は。い。て。吹。さ。る。茶
 小ハ又鳳凰團の号ありて。さる。と。着。る。小。麒麟。炭。と。さ。る。と。如。之。茶
 器と造る。よ。令。限。珠。玉。或。ハ。洞。狭。土。石。と。さ。る。て。只。一。節。の。竹。細。工
 也。能。者。よ。う。て。宝。と。さ。る。酒。器。ハ。僅。ハ。貧。乏。樽。貧。乏。陶。の。名。と。さ。る。の。こ
 及。ハ。ぬ。り。し。と。い。ひ。之。之。公。翁。ハ。鼻。で。あ。い。し。ら。ひ。夫。酒。盃。ハ。金。限。盃。あり。
 又玉の觴あり。い。が。ま。も。和。漢。の。宝。の。さ。る。と。さ。る。元。月。の。大。宗。師。さ。る。て
 御酒とさる。て。神。を。さ。る。さ。る。初。春。ハ。屠。蘇。自。散。二。月。初。午。乃。指

夢枕草子卷之四

十一

荷祭ハ赤の飯より神酒が賣れ三月三日の桃花酒ハ下戸も豆漿
 より白酒を賞翫と五月五日の葛蒲酒六月嘉祥の霰酒九月節
 供の菊花酒に至るまで延年の例子酌む三伏の暑は日中酒を
 飲ば暑と忘れまゝ玄冬の寒さ月も酒を飲ば冷ど凍む茶ハ神棚に
 供るものあり又夏暑とも味をかうるんと一勺もござるすいと競ひ
 かるを茶よりげと神ノ茶樹の指荷あまバ倉稻魂も茶好かり
 四月八日ハ釋迦の誕生甘茶と浴せなる卯月の利茶神は月の口
 切も時よりより浮茶一服喫と死ハ三伏の暑を忘れて二ふく乃
 あり玄冬の寒は日中茶ホ粥と啜まハ汗と流とかる衣ハ本州より
 茶ハ氣味甘苦く微寒毒あり服する死ハ瘴瘡あり小便と利
 睡と疾渴とまり宿食と消るといふ古來茶と嗜るもの陸羽

盧仝は撈まるハハ唐山より茶と賣るもの陸羽が像を夜置みま
 ねを齎して茶の神ととされ陸羽が茶経よ木ハ瓜薑盧のどく
 葉ハ拖子のどく花ハ白薔薇の如く子ハ拊桐のどく蒂ハ丁香の
 子ハ根ハ胡桃のどくその名五ツ茶といひ撰といひ説といひ茗といひ
 萍といひ天下の名水とえとむと凡二十ヶ所知とて撈ていべりまむ大
 東より利系滿北山より金閣と造りて鹿苑茶とあり義政ハ東
 山より銀閣と造りて天下の名器とありめよりそのち紹興利久が徒
 代に教寄者よまよりとて是より先建保二年二月四日將軍実朝ハ
 病悩但殊るるけりなり是去夜のハ剛碎の餘氣飲爰は茶上
 僧正ハ加持は候むるの如くありとて良茶と稱し奉寺より茶一
 盞と召進じ一卷の書と相副ててを獻らむ茶徳を譽るの書

將軍家御感悦よおふり。東鑑見ええり。その書ハ喫茶類生記
と題し。二巻あり。そのうち紫上僧正榮西の能る。而今掃々此の能
廣雅ハ所謂茶を飲バ酒を嗜ス人ぞと眼。さびとて以て取たり。
且茶ハ天工の飲り。酒ハ人能の飲り。人能の天工及んが西
齊詩話云。壽上の人日本より回。その國ハ産する。亦の梅尾山乃
茶を煮る。詩と賦とを謝之。その畧云。幸得梅山信初嘗
日本茶と云り。さよ梅尾山とのん。梅尾山の撰り。梅ハ和字を
読止我と云。字書をさる。梅の字あり。木母とのん。是梅と云
日の本茶と云。茶園と云。巴。榮西僧正栄より傳る。月筑前國背振山よ
植る。と云。岩上茶と唱へり。その後梅尾の明恵上人。榮西と種を傳て
梅尾ハ植。又宇治ハ植。近代宇治と守。と云。彼宇治の茶ハ別稱の
上。上ハ別稱。極摘宇治の名園と云。知と。師。奇と云。室宮。曾。呂利
性。我。さ。ハ。り。の。井。う。文字川。志。お。の。山。ふ。り。の。朝。日。び。を。と
ら。と。云。又。女。木。叶。の。茶。と。の。め。だ。疼。と。さ。り。つ。熱。と。さ。り。瘡。と。さ。り。し。
上。氣。と。云。又。洞。法。師。ハ。筑。前。の。岩。上。茶。を。傳。奇。と。云。さ。り。と。も。漢。京。
梅。の。尾。と。も。う。く。お。茶。の。風。味。も。う。と。岩。上。げ。あ。や。蘇。摩。河。童。子。経。り。
茶。ハ。十。徳。あり。と。云。り。五。徳。と。か。り。て。茶。と。云。人。も。さ。り。茶。ハ。十。徳。あり。と。云。り。
と。茶。ハ。百。葉。の。長。る。か。み。と。負。ぶ。さ。り。バ。負。ぶ。さ。り。夜。客。人。酒。と。人。能。と。云。
年。抄。の。ら。ら。り。び。が。う。頓。遜。園。ハ。酒。樹。あり。その。樹。の。形。柘。榴。ハ。似。え。り。
その。花。の。汁。と。採。て。麤。の。中。に。傳。息。バ。殺。日。り。て。酒。と。る。味。ハ。其。美。し。と
世。の。酒。也。又。天。工。の。酒。也。加之。天。の。酒。星。の。地。の。酒。泉
あり。て。備。元。正。天。皇。の。御。宇。と。云。美。濃。國。の。貧。民。又。孝。人。の。酒。泉

東鑑

二

酒と好むことども。飽やせとめうさかりし。あつ山入りて木を伐るふ
醴泉あつて流し出せ。菊て飲ばれ酒あり。飲びて毎日は飲つて。
家よりあつて。若う又と養ひあれ。その都は。天皇ふりく
賞せむのひく。養老と改元あり。その國史は。我らと。その孝と
世は。隠しと。亦茶の酒と醒と。酒飲ぬ人の。酒は。飲茶
ハ腎を傷り。腰脚重墜る。勝晩冷痛。痰飲水腫。消渴と患と
ありと。ハ藏器の説本草と。えて。晋の七賢八達あり。唐
の六遠ハ。仙あり。戎ハ。漢家の七十二人。又金谷の二十四友。劉玄石が
一斗。千餘。七八斗。王績ハ。酒怪と著し。劉白倫ハ。酒徳の
頌あり。元々山ハ。三吾ハ。隱也。歐陽修ハ。一壺と貯。ハ。醪醖醕と
酒の長。客人酒中の趣と。茶ハ。酔りのハ。醒が。さう。

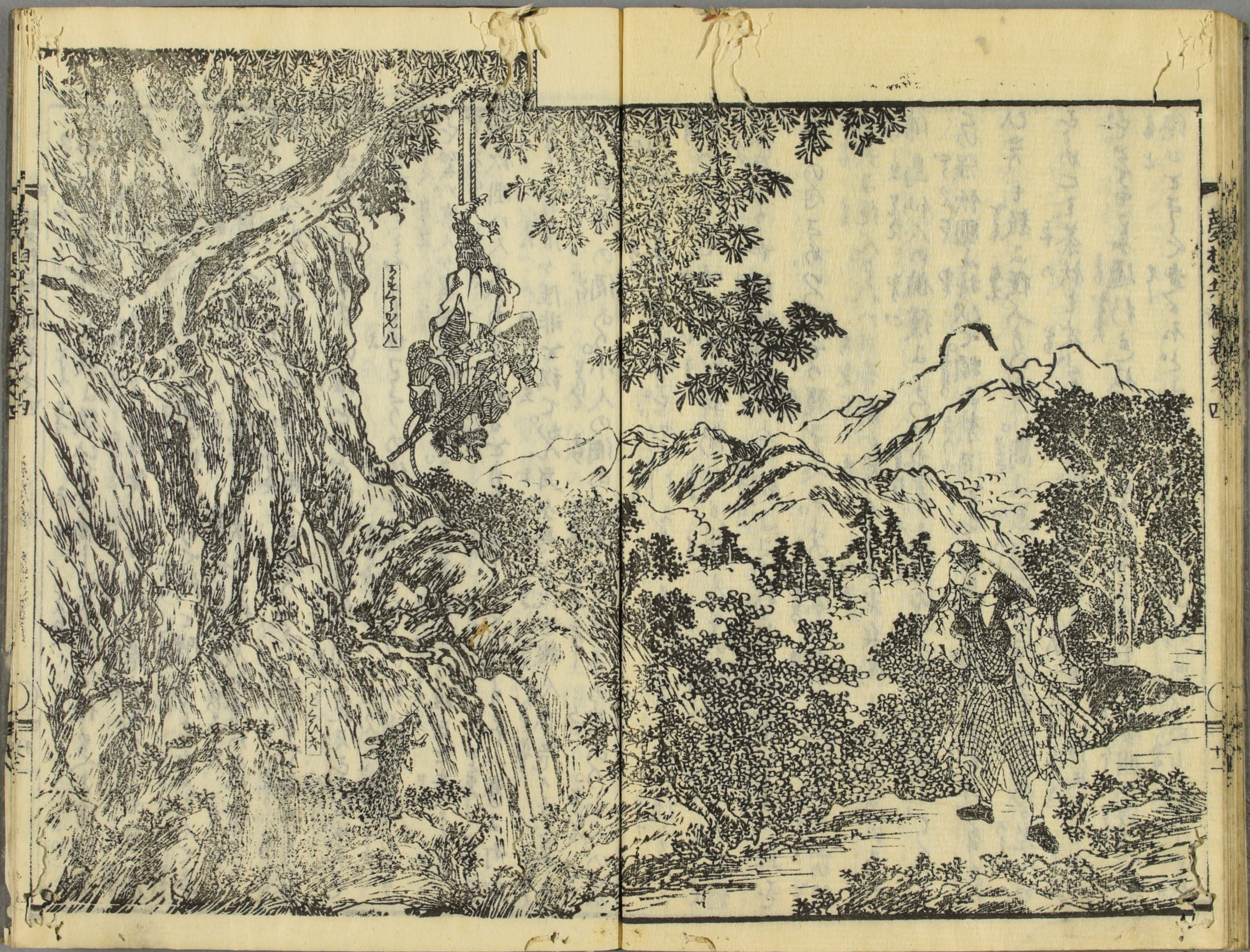
袖くらん。柱より。目と。用て。竟と。ぶりの。しん。夏。武。八
この形勢ハ。胸のり。中。なる。な。ねと。敵手。なる。なる。なる。
國ハ。此國の人。先。調。達。る。れ。も。經。慮。す。物。あり。し。と。み。奴。心。棄
障子と踏折り。四序と。り。碎。き。理。非。ハ。拘。る。る。の。考。す。
よ。よ。の。あ。つ。の。ど。れ。も。三。意。地。と。り。て。人。の。練。と。突。と。ど。虚。空。を
り。て。ア。と。り。須。弥。と。り。て。舌。と。り。薄。く。骨。と。弄。ひ。く。あ。と。火
おひひるもの。女子と。生。研。と。養。ひ。が。夫。危。邦。あ。入。と。ど。乱。邦
あ。居。む。む。か。る。知。る。虚。と。長。居。せ。ん。ハ。盃。多。り。と。ひ。さ。言。く。
身。が。ひ。く。ま。り。出。旅。宿。ハ。も。ま。ま。ど。港。口。と。り。て。ま。る。と。忽
速。と。端。さ。ひ。て。名。も。あ。る。ぬ。山。路。よ。り。入。り。あ。け。と。り。里。ハ。公
ま。と。く。遠。く。左。と。見。く。右。と。見。く。ま。も。人。迹。ま。る。深。山。の。

新編

三

なる。又走りて十町のまゝ。但見えは山の半腹より。生れたる松の葉
 とらけこそは。両足を結び着て。ぶらぶらり。るものあり。近くよりく
 らせと見るよ。こゝに人あり。世は首益るものかあれど。足格るとか。ひも
 及び。名を律断。さうと見え。ばさる。て。弄と三後。あ。鼻唄
 と。う。形容。さ。か。り。人。異。る。ね。ば。中。く。も。又。不。便。は。お。り。ひ。く。
 抱。さ。の。げ。つ。索。と。解。さ。と。扶。お。ろ。く。と。の。衣。を。回。は。る。人。甚。不。血。が
 て。これ。は。山。の。麓。る。樵。夫。あり。法。飲。園。は。生。ま。る。が。家。負。し
 じ。こ。ば。碎。入。る。ど。の。酒。を。飲。む。人。も。鹿。菜。と。負。て。里。へ。五。些。の。酒
 よ。り。つ。れ。と。山。風。は。吹。ま。ま。れ。可。惜。酒。の。急。也。は。碑。人。の。送。憶
 さ。よ。見。る。と。く。摘。り。倒。は。さ。か。は。飲。酒。の。母。見。為。る。り。ある

小。心。辺。り。ふ。あ。ま。と。あ。ま。ど。か。り。あ。り。し。り。と。さ。う。と。て。情。け。り。と
 頼。ふ。ら。く。咳。が。羨。女。兵。衛。呆。果。人。の。危。を。忘。れ。時。終
 の。害。さ。う。や。酒。を。解。さ。と。て。倒。は。さ。か。れ。と。も。脾。胃。を。害。し。血。を
 の。の。母。さ。め。り。つ。て。解。さ。る。べ。し。よ。の。山。の。索。を。と。り。又。玉。の。徳
 由。共。は。絶。ん。これ。は。日本。國。の。旅。人。は。羨。女。兵。衛。と。呼。ぶ。の。り。
 浦。島。仙。人。の。擁。護。は。し。り。て。年。々。色。慾。の。二。三。園。を。抱。壁。し。ら。う。ら。ら
 の。強。飲。園。は。抱。び。て。頼。は。禁。酒。を。と。り。む。し。と。も。碎。ぶ。ま。の。う。り。さ。か
 ひ。さ。り。も。教。は。後。ふ。り。の。り。嚮。は。美。祿。寺。の。母。さ。り。あ。り。あ。る。老。人。と
 と。め。こ。も。茶。飲。を。な。ら。と。と。と。ぐ。ひ。し。又。彼。も。又。口。強。馬。あ。く。笑。入
 だ。そ。も。由。は。通。行。は。ね。が。後。は。海。は。浮。る。貪。婪。園。へ。渡。ん。と。て
 港。口。と。さ。く。ま。る。と。途。は。迷。入。て。山。路。は。入。り。ぬ。山。人。か。り。は。



八ノ見ノ光

カノシキ

吉野山に神巻の道

と命の奴と名づる。アガ教は後して禁酒して天年と保身と言語を
 掲して説諭せん。樵夫笑て冷笑ひ。客人化の危を志すとも。月の危
 を志すとも。今アガ星を樹の杪よりけり。酒を醒すとよるを危
 志すとも。諫めよ。眼よその索をる。左に。まれば人の命の索より
 危く。つぎの月。何知あく。結果んもあつた。かくや。危き玉の結
 とよめて。世アガの程とよんども。その程は月よ見えど。アガめ
 慾は耽り。まがく。世アガの程とよんども。和漢今昔あつた
 ぶ。客人が異國は推渡りて。アガ長き。説人の程を責るがごとし。
 強飲。困ハ人。気あつく。怒るとり。常とよんども。や。一卷は打敷
 さつとも。誰か理非を説て。おん。牙か為。又仇と報ん。亦危く。や。夫
 酒は君子の酒あり。小人の酒あり。茶も亦君子の茶あり。小人の茶

あり。酒ハ天の美緑あり。茶ハ地の灵木あり。帝王酒とりて天下を
 頤養ひ。茶よとて山林の賢者とある。鬼神と祀り。福を祈り。老を
 杖け。飲びて。冬と。福の會也。酒はあつた。行は。これ。不謂
 君子の酒あり。世界とあり。困居と。日月とあり。天目と。紅海と
 りて。風爐とあり。万民とあり。客と。乘と。不謂君子の茶也。
 應神。角鹿は還幸して。大臣酒樂の身とあり。弘仁。袋内。不
 園とひ。於て。處女茶摘歌と祀る。君子の酒とありて。胸中の磊
 隗と。澆と。小人の酒とありて。洞房。漁樂の媒と。酒ハ。八行あり。茶ハ
 十徳あり。酒と酌て。人と愛と。仁之。盃と。あげて。客と。餐と。佐之。
 酔て。牙と忘る。勇之。賓主相讓る。礼あり。本性を。精。ハ。智
 り。醒て。相勦る。義あり。行と。缺。ハ。その。本。か。ま。て。

夢枕共備卷之四

廿二

未だこゝろぬ。狂きてその人の非をまごまご尻の居々ぬ
 高脚杯あり。酒是に招きて遅く到る。其の信を失ひ碎く相争ふ
 之れハ系と失ひ酔て勸解ると其の勇と失ひ酩酊しく相罵ると其ハ
 仁と失ひ強て飲ると其の礼と失ひ酒量多くて其の之れハ
 智と失ふ。されを誤て其の非とあるハ酒はあくのみあり。小入罪
 り。盃を抱て罪あり。且その咎ハ酒はあくむ。飲りの賢愚又あり。
 人誤めると其ハくま。と酒は歸と。酒の本は免さる。其の飲ぶるまは
 福あり。こととまごまごの改め。くま。白物も。醒てまごめく。その
 非とあるハ。酒の徳も。人その乱酒の醒るま。日よおの非をまごま
 過とまごまごのめ。酒の固は百葉の長る。その毒とある所
 以ハ火の燒水の濁るとまごまご。譬ハ二件の酒と盛ると其ハ

溢とまごまごのつゝまごまご。人まごまご。酒量とまごまご。その量よまごまご。かまごま
 五臟は溢して余と失ふ。人まごまご。酒量とまごまご。其の乱まごまご。乱まごまごまご
 酒聖とまごまご。延喜十一年六月十五日。亭主院に酒を賜ひ勅して二十
 盃と限とまごまご。夜まごまご。僅まごまご。八人參談。藤原仲平。兵部大輔
 源嗣右近衛少輔。藤原兼茂。藤原俊茂。出羽守。藤原経
 邦。兵部少輔。良峯。遠視左兵衛佐藤原伊衡。散位。平希世
 ホる。その中希世ハ。外に碎くまごまご。仲平ハ。殿上。小回物店を
 出。その餘の徒も。これとまごまご。言舌度まごまご。是ハ。北と端まごまご。侍
 一人。責と乱まごまご。抽賞とく。駿馬と賜る。長谷雄卿の賜酒
 記。よまごまご。げと酒ハ。量まごまご。只乱まごまご。及まごまご。聖人ハ。宣まごまご。ぬ
 ちよまごまご。伊衡ハ。三十盃の酒量とまごまご。右に二十盃

一斗を乱しどその餘の人への十盃或ハ十五盃の酒量とありて二十
 盃を傾しかば酔て泥のごとく酒のそよめど人の賢愚亦如
 此なり。聖人の四海を酒して飲そと申れど此れを成りて國は
 在りてその國は家よりてその家整ふりその徳を以て富貴
 よしとんを願ひその方りて練を拒下下と恥るものハ三盃の
 酒量とありて而盃の酒を飲んとするが如しや志を一時に以て是を
 飲そとをありとも久しむとぞと乱しその酔いしむと死して笑を
 後と遺と亦警べし且酒の利害を以て酒ハ富人は害ありて貧者ハ
 利のありふとるれば富人ハ年中持酒を貯て佳者とのめ酔て房
 に入るのそよめ成りて淫酒兩りかちを傷りて短命之貧者ハ酒を
 結ぶ或ハ一合或二合時又後て又飽まで飲む且調合酒ハ誘へて久く

人と酔せど僅ハ酒氣を帯びて布子一枚の盃をおおえ重なるに
 負く遠きまきりよくその身を運動するも急ハ酒よりて長壽
 あり。志とどや小人ハ使ひかきりて悦し易しとて使ハ酒價を
 りつてと酒といふものろくせぬ坂ハ墮るとも浮雲助ハ長持を昇く
 りのものろくせん。さるお下戸ハ酒の害とあるはふく酒を嗜りその外を
 戸ハ酒の利とあれども酒の害とあるはふく酒を嗜りその外を
 然ハ酔と死ハ寡慾ありて忠慮とおと憂と散ふら成りて酒は毒
 傷るの毒ありどもおのづから補ふとあり又酒を嗜るものハ煩惱息を
 りく酔る衣又多慾ありて忠慮と去る憂と解よりしこもふよりそ
 酒毒の害と脱るといふもさるく補ふ雨ありめまの飲と飲ととは
 利害半と夫淫酒ハ人の大慾あり凡夫の禁けが死を知りて教を自

まづこの慾を断て。その利害とまづ一のり。西方の聖人も、いふ事。淫
 びと飲まざるべし。淫酒の固くは警び。これを責む。只害の。凡夫悟
 ぶ。親氏の淫酒の二と禁む。人情又情るといふ。亦迷へ。且酒
 濁りの人。その非とある。茶は濁りの人。人のま。その非とある。と
 茶へえ来。貴人ま。貪賤の所行とある。人のま。その非とある。と
 宗と。古器と。めく。金銭を費む。真の茶。い。と。法式。又。泥と。
 そ。控。清い。も。真の茶。い。と。陸。鶴。漸。ハ。當時。茶。い。名。字。し。控。は。茶。
 李。季。卿。が。為。し。取。り。の。ま。毀。茶。論。を。著。し。て。亦。終。上。茶。を。い。わ。ぬ。富
 貴の人。ま。清。貧。剛。雅。の。控。び。と。く。そ。の。や。め。づ。し。く。も。あ。る。あ。貴
 賤の人。賤。賤。の。控。び。と。く。何。の。ま。あ。れ。と。あ。る。あ。人。が。い。ふ。初。と。く。さ。は
 と。て。富。貴。の。控。び。と。羨。む。奇。品。の。茶。器。と。我。人。と。ま。り。の。人。の。害。酒

より甚し。朝。之。起。て。漱。茶。の。出。花。と。嚙。む。は。皮。せ。東。窓。より。入。る。
 旭。よ。向。ひ。て。一。碗。を。喫。み。の。ま。茶。も。又。酒。も。ま。と。ま。の。彼。も。排。り。て。皮。
 是。も。嘗。べ。う。と。ま。強。飲。圃。ハ。茶。と。ま。と。ま。の。皮。の。茶。を。排。り。客。人。ハ
 酒。と。好。ま。し。と。ま。飲。り。て。酒。を。憎。む。好。憎。あ。ら。く。相。争。ふ。の。ハ。公。論
 あり。と。客。人。酒。中。の。競。と。ま。る。又。ま。の。茶。は。酔。へ。と。嚙。む。と。て。
 人の酒を醒えと。これ。も。又。酔。う。人。も。ま。づ。茶。は。酔。う。人。醒。
 と。て。人の酒を醒。し。ま。し。う。と。ま。の。至。る。ぬ。く。お。暇。と。う。と。と。あ。る。と
 と。ん。ハ。夏。秋。兵。馬。ハ。年。の。舞。足。の。端。と。ま。の。皮。と。ま。の。慌。忙。つ。熊。夫。を
 引。ま。めて。懸。懸。は。腰。と。ら。め。を。れ。が。眼。あり。つ。ら。豪。傑。と。ま。の。野
 夫。も。功。者。の。り。と。い。ふ。王。氏。之。忘。う。礼。後。急。取。ふ。と。ま。の。野
 夫。も。高。論。ふ。う。て。明。の。碎。頓。は。醒。あ。抑。山。ハ。何。と。呼。ぶ

中ん。先生の言号もあつた。一々をとりて。樵夫えうりて打
 点氏。山の醉醒山と唱へて古今独立の奇峯あり。思ふるもの。
 酔てあ山ふ登る。忽ち地をなげ酔して。その非を曉し。世賢三人醒
 てあ山ふ入る。酔を復し。その樂を助く。そ然りて醉醒乃名
 のり。客人らふ至て。てめてその非を曉り。ゆひ。論の高れ。あど
 山の笑のち。死ある。そはも鳴呼る。あど。おのれ。誦。猶。間。八。と。吟。凡
 酒を煖る。熱く。ど。冷く。そ。の。間。を。考。木。と。間。と。い。間。ハ。則。中。庸。の
 義あり。それ。酒を好む。酔を醒む。その間を樂よ。うて。間をりて。名
 と。又。美。祿。寺。の。酒。と。り。あ。て。客。人。と。酒。茶。と。論。る。老。人。ハ。乙。律。園。蘭
 叔。と。い。り。の。る。ぞ。彼。ハ。別。号。を。忘。憂。君。と。い。り。頗。才。器。の。成。り。つ。く。
 常。又。飲。仲。間。と。い。彼。と。それ。凡。庸。の。才。い。ま。物。の。数。る。と。い。この

國。の。古。く。酒。聖。酒。仙。と。い。客。人。を。用。の。兵。を。好。む。却。て。人。の
 笑。ふ。そ。く。め。り。と。威。さ。れて。後。兵。衛。の。ち。り。警。き。それ。が。こ。ま
 へ。貪。婪。國。へ。推。渡。り。て。亦。一。行。せ。や。と。あ。ど。由。く。道。を。志。す。と。
 進。退。ら。ず。突。り。ぬ。と。啣。バ。間。ハ。う。ち。笑。ひ。孟。子。境。入。る。と。死。ハ。國。の。大。禁
 を。問。と。り。聖。人。ハ。凝。滯。せ。ど。物。と。推。移。さ。る。客。人。強。飲。の。困。り
 拮。ぐ。の。ど。て。その。穢。を。誦。ひ。その。醜。を。曝。ら。る。貪。婪。國。ハ。狐。さ。る。と。海
 上。三。千。餘。里。な。れ。渡。海。り。つ。と。も。容。易。や。と。あ。ど。由。彼。國。の。熊。鷹。
 と。り。く。の。山。へ。飛。來。く。え。物。毎。は。擡。屍。お。の。古。巢。へ。り。て。由。く。と。あり。
 さ。る。み。う。て。慾。あ。り。死。り。の。と。熊。鷹。と。い。貪。婪。國。ハ。合。賣。て。飽。と。志。ぬ。國
 る。ま。ば。と。死。て。彼。知。の。熊。鷹。ハ。屍。を。放。と。り。入。と。は。か。り。その。を。不。醒。せ。れ
 る。が。一。歩。も。勞。せ。ど。と。速。は。彼。地。へ。到。る。と。い。命。の。の。り。は。け。合

まふと。といひも果ぬ。忽ち瓶と羽あり。去て天狗や。鵬や。おろし
げらる鳥翔さる。夏を兵衛をふ。能で虚空なる。のりのそり。

○摠評

世は酒を飲で酔ざるのり。あつまども。いふ。劉玄石が如き。紙をい
び。酔て亦醒ざるのり。あつれども。いふ。屈原が如き。紙をい
劉玄石中山の酒家。酒を沽し。主人千日の酒をよみ。酔て
家。又ぬま。死するが如し。その家。竟にそれと葬る。後。酒家の
あつ。日と揃。つて。あつて。三年。以前。葬るといふ。
驚。さ。その故。を告。墓を。後。棺を。開け。ば。玄石。欠伸。し。初
て。醒。る。その。棺を。開く。と。酒。氣。を。打。て。酔。り。の。亦。百。日。起。ぶ
といふ。記。又。楚。國。の。屈原。ひ。と。醒。る。楚。の。君。臣。も。酔。を。取

る。又。屈原。と。容。と。と。屈原。既。に。放。逐。して。江。潭。に。投。げ。り。澤
畔。を。吟。み。て。顔。を。憔悴。形容。枯。槁。魚。又。こ。こ。を。見。て。説。諭。せ
ども。聽。じ。遂。に。汨。羅。に。投。り。といふ。夫。中山。の。美酒。千。日。玄。石
を。酔。し。て。玄。石。を。殺。す。と。楚。國。の。濁。酒。一旦。屈原。を。醒。して。屈原。を
殺。す。その。あ。は。一人。か。醒。ん。る。衆。人。の。酔。ぶ。あ。は。と。酔。び。て
醒。ん。る。い。い。く。難。く。酔。て。川。へ。も。す。ま。り。の。り。醒。て。淵。へ。投。げ。ら
る。と。紙。り。屈原。が。如。き。稀。なる。

